

## 令和8年度国際理解ワークショップ タイトル・要旨一覧

大学名	新潟国際情報大学	
タイトル	もしもの時、私たちはどう支え合う？ —震災から考える“お互い様”のつながり—	「はじめまして！」から始まる多文化共生 ～出会いから広がる新しい世界へ～
要旨	地震はいつ起こるか分からず、だれもが突然、助けを必要とする側になるかもしれません。 世界では、国や立場のちがいを越えた支援が行われており、日本も被災国として支援を受ける一方で、支援する国として各国の復興にも関わってきました。 このワークショップでは、災害をめぐる国どうしの支援を入りに、国際協力について学びます。 続いて自分たちの地域での助け合いに目を向け、そして日常の「困ったときはお互い様」へと、支え合いの輪を一緒に考えていきます。	自分の住んでいる国と他国の日常生活にみられる文化の違いを知っていますか？ 新潟県には今、約2万5千人の在留外国人がいます。 それに伴い、身近な場面でも外国人と関わる機会が増えています。 このワークショップでは、実際に新潟県で暮らす外国人の声を聞きながら、日常生活の文化に触れます。 そして、体験を通じて他者の価値観や異文化を知ること視野を広げ、遠かった世界を身近に感じられるようになります。 新潟県で多文化共生社会の一步を踏み出すために大学生と一緒に学びましょう！
主な対象	小学校高学年～高校生	小学校高学年～高校生
関連SDGS	11「住み続けられるまちづくりを」 16「平和と公正をすべての人に」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」	10「人や国の不平等をなくそう」 11「住み続けられるまちづくりを」
代表者名	今城 光	田中 直仁

大学名	新潟国際情報大学	
タイトル	「すれ違い」から考える多文化共生 ～相互理解の先にある「共生」のかたち～	「察して」を超えて ～みんなちがってみんないい～
要旨	近年、日本に暮らす外国人が増え、地域に溶け込む一方で、ルールや騒音をめぐる摩擦も生じています。 その背景には、文化や生活習慣、情報の伝わり方の「すれ違い」があります。 しかし、この「すれ違い」は、外国人と日本人の間だけでなく、日本人どうしの間でも起こります。 本ワークショップでは、まず互いの背景を知ることの大切さを学びます。 そのうえで、「相互理解」だけでは乗り越えられないものにも向き合い、“違い”を前提とした「共生」のかたちを、一緒に考えていきます。	私たちは一人ひとり、異なる生活環境のなかで育ち、多様な価値観を持っています。 しかし日本社会には、互いに察し合う文化や同調圧力が根強くあり、文化や背景の異なる相手とのすれ違いを生むこともあります。 だからこそ、価値観が多様であることを前提に、「分かり合えないこと」から出発するコミュニケーションが必要です。 本ワークショップでは、答えのない問いをみんなで考える「哲学対話」を通して、なぜ相手はそう感じるのかを想像し、他者の価値観を尊重する共感力と想像力を育みます。
主な対象	小学校高学年～高校生	小学生～高校生
関連SDGS	10「人や国の不平等をなくそう」 11「住み続けられるまちづくりを」 16「平和と公正をすべての人に」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」	4「質の高い教育をみんなに」 10「人や国の不平等をなくそう」 16「平和と公正をすべての人に」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」
代表者名	小柳 響太郎	佐藤 倅

裏面に続きます。

大学名	新潟県立大学	
タイトル	色々な「メガネ」を手に入れよう！ ～バリアフリーとユニバーサルデザインでつくる、みんなのまち～	学ぶって当たり前？ ～教育格差から考えるSDGs～
要旨	バリアフリーとユニバーサルデザインを理解し、高齢者や子ども、障がい者などの多様な立場に立って考えることを目指す。他者理解を目指し、世の中のバリアフリーとユニバーサルデザインの実在する仕組みや施設を取り上げたり、日常生活で存在するデザインの問題点を自分で挙げたりして、バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解し、どんな状況で誰が困っているのか、どうしたらそういった仕組みを増やせるかを考える。	学ぶことの大切さや教育を受ける環境について考えることを目標とする。性別や貧困、住む地域などによって生じる教育機会の違いを知り、ゲームや体験を通して、自分たちの「学ぶ当たり前」を見つめなおす。教育を入り口として、SDGs全般の様々な課題へ関心を持つきっかけにしてほしい。
主な対象	小学生～中学生	小学生
関連SDGS	10「人や国の不平等をなくそう」 11「住み続けられるまちづくりを」 16「平和と公正をすべての人に」	4「質の高い教育をみんなに」 5「ジェンダー平等を実現しよう」
代表者名	吉村 凜	西澤 千晴

大学名	上越教育大学	新潟大学
タイトル	～今日から始める自分アップデート大作戦～	フードダイバーシティってなに？ ～食卓の多文化共生をめざして～
要旨	本ワークショップでは、小学生から高校生を対象に、多様な背景や価値観を持つ人々と共に安心して生活できる社会の在り方について、体験的な活動を通して考えていくことを目的としている。参加者同士の対話や協働を通じて、普段の自分にとっての「当たり前」を問い直し、異なる立場の人への理解を深めることや、災害時などのもしも(利き腕が変わる・避難所にいる等)な状況になった場合の課題を想定することなど、多文化共生や支え合いの重要性について考察することを目指している。SDGsの視点や国際理解などの視点とも関連付けながら、多様性を尊重する態度や他者と協働する力などを育むことを目指している。	このワークショップでは世界の「食」をテーマに、フードダイバーシティや多文化共生について理解を深めていく。宗教や伝統などを背景とした食文化の違い(たとえば、イスラム教のハラールやラマダンの断食)を知ることを通じて、世界のフードダイバーシティについて考える。また給食の献立づくりなどのグループワークを行うことで、生徒が主体となって「食」をつうじた多文化共生のあり方について考えてもらいたい。
主な対象		中学生～高校生
関連SDGS	4「質の高い教育をみんなに」 10「人や国の不平等をなくそう」 11「住み続けられるまちづくりを」	10「人や国の不平等をなくそう」
代表者名	佐々木 駿	川村 天守



【新潟国際情報大学国際交流ファシリテーター事務室ホームページ】

事業の詳細や過去のワークショップタイトル等について、ご覧いただけます。※今年度の進行シートは、8月末頃に順次公開予定です。



【新潟県国際交流協会ホームページ】

募集要領及び申込書等は、当協会ホームページのお知らせからもダウンロードいただけます。